



戦いという舞台へ

令和7年1月27日

黒田インターナショナル コンサルティング LLC

黒田 毅

資本と技術における先端性は、市場における戦いをグローバル市場の統一とともに与える。これがビジネスという戦いの舞台である。

これら競争原理における現実、勝利と敗北において自己を与えるのである。世界中のエリートが、それを競い合うのである。

これらは、ビジネスにおける戦いであり、企業はそれを否定できないのである。

他方において未来という可能性が存在するものであり、今日の変化は、新しい未来への転換である。

これらは企業の進歩は、独創性を求め、新しい未来という可能性を現実とできるのである。

そのため企業は自己の優位性を求められるものである。これはより優れた理解がそれら現実を可能とできるのである。

グローバリズムにおける市場は、その競争を自己とするものであり、すべての国家の傘下における自由貿易システムなどにおける現実、市場における生き残りを必題とするものである。

これらが企業への要求であり、企業はそれをクリアしなくてはならない。これが企業努力の要求であり、進歩と改善は時代とともに新しい企業を要求するものである。

そのため企業は常に市場に対して優位性の構築を行わなくてはならない。それが企業の永続を与える唯一の可能性なのである。

これら正しい企業経営は、企業構築を精査し、より優れた自己を常に要求されるものである。

それらが経営における要求であり、企業が常在する変化と改善を求められる理由なのである。